

令和三年度 卒業式式辞（高校）

式辞

弥生三月、ここ太平台にも春の息吹が感じられる今日の佳き日、國學院大學栃木学園理事長 川福基之先生、ご父母の皆様のご臨席を賜り、第六十回國學院大學栃木高等学校卒業式を挙げていただけますことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

四六七名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、「国体の講明」「人格の陶冶」の建学の精神のもと、勉学、部活動、学校行事、ボランティア活動などに全力で取り組み、「心・頭・体」の三つの力を鍛えながら成長し、本日、晴れて卒業の日を迎えました。本日の喜びは皆さんのたゆまぬ努力の結果であることは言うまでもありませんが、この場にいられるのは、皆さんのことを絶えず気遣いながら支えて下さったご家族を始めとする周囲の方々の励ましと指導のお陰でもあります。卒業という人生の節目において、そのことをしっかり胸に刻んでほしいと思います。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。立派に卒業の日を迎えられたお子様の姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。特に2年以上に渡るコロナ禍、お子様を支えていく上で、さぞかしご苦勞も多かったことと存じます。それだけに今、この場にいらして、お子様のたくましく成長した姿を見ていただけたことを何より嬉しく思います。本日まで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、皆さんは、平成31年4月、夢と希望を胸に抱き本校の門をくぐりました。「明日への希望と共に一人ひとりが大きく花を咲かせられる日本でありたい」という願いが込められた令和へと年号が変わった年です。その言葉通り、希望に満ちた日々が過ぎて行き、九月には最大の行事である文化祭や体育祭も無事終了、その勢いを借りて、さらに高みへと向かおうとしていた十月のことでした。大型の台風がこの栃木市をも襲い、豪雨による洪水のために、多くの人々が被害に遭いました。本校も一週間ほどの休校を余儀なくされたのです。その後、皆が復興の努力を重ね、ようやく日常生活が戻って来ました。その矢先のことです。今度は新型コロナウイルスの感染拡大です。突然の休校から始まり、学習どころか健康や生命に不安を感じながらの自宅待機、学校が再開しても検温、マスク、手指消毒などの感染防止策を講じつつ、神経を使いながら授業を受ける日々、学校行事も修学旅行の中止に始まり、上級生になり中心となって活躍するはずの文化祭・体育祭など様々なものが中止、部活動でも多くの大会が中止になるなど実に様々なことが失われていきました。予想外の不安や苦勞を強いられてきた身体と心の負担は、私たちの想像を超えるものであったでしょう。特にこの2年間は、我慢の日々であり、挫けそうになる自分との戦いであったと思います。

しかし、皆さんは負けませんでした。初代学校長 佐々木周二先生の「人は誰でも困難を乗り越えて今日まで生きています。そして困難を乗り越える度に人は強くなっていきます。それはちょうど人間を強くするために困難があるようなものです」という言葉の如く、皆さんは、逆にたくましさを増していきました。一年次の台風被害の時には、ラグビー部、野球部、柔道部を始め、多くの本校生が市内のボランティア活動に参加、また生徒会やインターアクトクラブで募金活動を推し進め、多くの方々から感謝の言葉を

いただきました。その時、ラグビー日本代表として活躍した卒業生である田村優選手が来校し、贈ってくれたメッセージです。「今大事なことは何かを考え、やるべき時にやるべきことをすることが大切。人生において、困難な状況に直面することがありますが、良くなる時が絶対に来ると信じて下さい。それまで夢・目標をしっかり持ってぶれずに突き進んでいきましょう」、この言葉は、その後も私たちの大きな支えとなりました。

そして、今でも続いているコロナ禍の2年間、慣れないオンラインでの授業や課題提示などの対応に懸命に努力し、また、登校できるようになってからは、感染予防に神経を使いながら、以前と変わることなく早朝、そして放課後遅くまで自学自習、先生方に積極的に質問する姿も多々見られました。また、制限のある中、皆で知恵を出し合ったり遂げた文化部発表会、ホームルームの団結を見せてくれた校内競技大会など、実施できた学校行事は数少なかったですが、皆さんの真剣さと情熱を充分に感じ取ることができました。

また、部活動も思うように練習ができない状況にも関わらず、集中し、工夫し、そして必死になって練習し、様々な場面、大会などで活躍、中でも、ラグビー部の花園全国大会準優勝は、コロナ禍で沈んでいた私たち全員の心を明るく照らし、勇気と希望を与えてくれました。特に、主将がアクシデントで出場できなくなるという逆境を逆に力に変え、実績、そして体格に勝る相手に対し「ひたむきに」向かっていく姿に、本校関係者は元より、栃木市、栃木県、観戦していた多くの方々から、「感動した」との声が寄せられたのです。また、部員一人ひとりが、普段から「規律」を重んじ、学習を始め生活面においても常に真剣に向き合い、「当たり前のことを当たり前にする」姿勢は、まさに本校教育を体現し、國學院栃木の生徒像を象徴するものでした。振り返るとこの3年間、皆さんは本当によく頑張りました。その頑張りに私たち教職員一同、心から拍手を送ります。

この間、マイナスをプラスに変えてきた皆さんは、レジリエンス（立ち直る力）とグリット（やり抜く力）という力を育み、また、過去の先輩と同様、皆さんもまた、外部の方々から「校内の駐車場で案内をして下さった学生さんたちが、皆さん礼儀正しく、さわやかで、感動いたしました」、「学校全体に落ち着きが感じられ、高校生の方たちの挨拶の声が大きく、心に残りました」というような感想をいただきました。下を向きがちな状況の中でも、こうした礼儀、他への心遣い・思いやりを忘れず、人としての基本をきちんと身に付けて来たことも素晴らしいことでした。皆さんにとって、これら全てが、未来へ羽ばたく大きな力になるはずです。

さて、皆さんは明日より次のステージへと歩を進めていきます。そのステージとなる現代の社会は、このコロナ禍も一つの例ですが、温暖化が象徴する地球環境の変化やAIなどのテクノロジーの進歩が劇的なレベルで進む「予測困難な時代」とよく言われます。しかし、いかなる時代になったとしても、しっかりと対応し、幸せな人生を送ってほしいと願っています。では、幸せになるためにはどうしたらよいでしょう。私は自分が幸せになる一番の方法は、他の人を幸せにすることであると信じています。そのために

も、何度か言ってきましたが、「利他（りた）」という視点を持つことです。自分の利益のためではなく他人のために行動するという事です。人に気に入られよう、好かれようではなく、純粋にどうしたら人や社会の役に立てるのかと考えてみて下さい。利他の心がある人の元には、自然と多くの人が集まるようになっています。そして、その人たちが皆さんの人生を豊かで彩りあるものにしてくれるのです。

最後にもう一つ。人生とは選択の連続です。「生きる」とは選ぶことです。どの道を選ぶかは、自分の責任で選ぶしかありません。どのような道であっても、自分の納得がいく道であり、自分を生かせると思える道とあると信じて進んでいける人は幸せです。どうか皆さん、勇気を出して一歩前に踏み出して下さい。皆さんには無限の可能性があります。自分を信じ、自分の可能性に賭ける勇気と決断が、これからの人生を切り開いて行くのです。國學院栃木の卒業生であることの誇りを胸に、しっかりと前を見据えて、自分の選んだ道を堂々と歩いて行って下さい。

希望に満ちた旅立ちの日に当たり、この学舎を巣立ちゆく皆さんの前途に、幸多からんことを心から祈念し、『式辞』といたします。

令和四年三月二日

國學院大學栃木高等学校

校長 青木一男